

昭和12年4月1日（木）

晴天。佐世保へは四日挙式の件、唐津橋本氏には昨日の礼状、岡藤氏には近日伺う旨、葉書認め投函す。二郎入口に柵を造り、手洗い水置き場を造り、整理に着手す。此日は余、極めて消極的援助せしに過ぎず。

昭和12年4月2日（金）

冷氣強し。早朝起き出て釘打直し、二郎と共に小屋掛けに着手す。鋸を五十銭にて古物を求めなどす。亜鉛屋根板1, 07円にて三枚求め、屋根葺、ラジオアースを造り呉る。風呂に行く。秀夫来たらず。

昭和12年4月3日（土）

曇り次第に霽れる。二郎扉を造り、荷物函を小屋に入り荷物全部を収納す。神棚、仏壇置台をも作成。秀夫来たりしも、此の方面の労力には加勢せず。永松馨氏、妙子に伴われて来たり。夕食を一同に餐す。（子供三名を加え）十名の大衆、二回に食卓に座る。味飯の馳走なり。五時より秀夫と浄水池に行く。桜花満開、酔客噴夷（ふんごう）。山を一巡、電車にて戻る。秀夫も来る。昨日風呂行きの際、下駄を他人のと穿違えて来たりしが、本日交換し来る。十時半寢床。

昭和12年4月4日（日）

秀夫早く来る。薫氏、朝帰る二郎に嫁の切符を求めしむ。自分のは鹿児島より通し切符を所持せりと云ふ。秀夫に提示せしめよと囁く。秀夫即ち二郎に提示を逼る。二郎其れまでにせぬとも可なりと云ふて、遂に提示せず。余嫁の分二十円の外、急行料弁当料として拾円、計参拾円

を与ふ。昌江に電報にて、何時出発せしかを尋ぬ。余の理髪35に行き居る間に昌江来る。既に一番にて到着せりと云ふ。時刻は六時に挙式と云ふ。夫れでは八時の発車に間に合わず。昌江に巖談す。昌江は責任回避す。二郎をして料理屋に電話せしめて、時刻を三時に変更の旨判明し漸く安堵す。然るに將に時刻は三時に近し。余と秀夫は電車にて、二郎道子はタクシーにて80来る。松原氏夫妻、昌江妻女、及び嫁女も子供連れにて来たり居る。是れは調髪師代理せしめん為なり。松原氏には車夫も同伴し居る。五時、嫁父母親戚来たり。五時半頃より挙式。六時終了。次いで茶の際、余より挨拶。次いで飯を、次いで酒宴の席に大原家親戚を代表挨拶あり。酒宴半ば、花嫁は髪を束髪にすべく大丸に行き、七時四十分、余、二郎はタクシーにて駅に行き大原よりの荷物、行李二ヶ受取り、外に蒲団一ヶは工業学校の息子の分とて、一時預かりとして差置きたり。二郎は自分と静江氏の分、切符二枚を（十三円八十銭大曲駅）求めたるを不審と思ひ提出せしめし処、鹿児島より云々は全く無根なるを発見せしも、今更文句嫌みを並べても詮なしと、其の俛、余も下関までの往復切符を求め一緒に乗車す。学生の帰校する者多く満員にて、余は折尾まで立詰めなりし。十時二十分頃門司着、三十五分下関着。十時四十五分臨時列車及び十一時と何れも急行券にて、駆足にて十一時の汽車に乗り込む。幾分間隙あり、十一時十五分発車。之を見送りて門司に至れば、十二時を過ぐ。風寒く雨降り出ず。旅館の猫、起き居るものあり、之に宿る。

昭和12年4月5日（月）

快晴。五時出発を可能とせしも、宿屋は誰も起床せず。

六時二三十分前洗面。ベルを鳴らして女中を呼び、宿料1, 20を1, 50渡して駅に急ぐ。六時十五分発車、八時十五分博多駅着。宅に帰れば昌江漸く起きたり。余は便所に行き身体を洗ひ、朝食を昌江と済まし、久子に180円貯金払戻しをなさしめ、内150円を昌江に手交す。猶昌江と一緒に余の土地を見に行き、無断土地を侵害して家屋を建て居る者を訪ふて、糾明す。先方に無断借地に対し陳謝する所あり。昌江は法律の制裁に依り、解決を期せんとする意嚮あり。多分損害賠償の意図ある如し。蔬菜を栽培し居る向きに立寄り、巖談し、昨日の料理屋の勘定に行く。余販宅後、腹痛下痢の兆あり。厠に至り、後少時休息す。道子懷爐を持来す。間もなく癒え、久子、秀夫に朝鮮飴を礼に持参す。此日気温降下、冷氣強し。昨夜の料理の引出物を食し、夕餉を済ます。入浴九時半、寝る。

昭和12年4月6日（火）

晴れ、風強し。訪欧朝日神風號出発、翔程一万五千料。道子等、那須君宅に蒲鉾持参。午後二時頃販宅。余の為、福岡市内地図25求め来る。之に依り岡藤氏宅を訪ぬ。岩田屋より商品券2, 00求め、西新町まで自動車及び電車にて、城南線交叉点を東に鹿原より右に折れ、西ヶ崎に至れば直に判明す。堂々たる二階建て家屋に居住さる。請わるる儘に座敷に上がり、母堂並びに父君に面接し、十分間の後、辞去し城南線四区を乗り、渡辺通一丁目にて乗り換え、南新町よりバスにて六時販宅。夕餉を済ます。秀夫来る、十時過ぎまで話して販る。道子等、間もなく風呂に行き、余は其の俣寝に就く。可なり冷ゆ。

昭和12年4月7日（水）

晴れ曇り半ばす。唐津局員及び近藤恵順氏に手紙認む。此日初めて正式に筆を執る。其の為、終日を費やす。朱肉瓶及び封筒の置場を失念し、之が探査に時間を徒費せしめたり。

昭和12年4月8日（木）

朝来曇り、雨模様。次第に降り出す。朝寒し。鞆内に保管しあることを認め、朱肉及び封筒共発見せり。隣家に貸家札撤去せられたるは数日前なりしが、今日電燈取付けす。

昭和12年4月9日（金）

薄寒、晴れ。電燈会社職工、引続き隣家から更に私家に来たりメートル据付け、昼間線と切替え工事を終わる。工事費一円徴収せらる。五燈まで差支えなしと云ふにぞ、玄関二畳に点燈。電工無雑作に蒲団を取出し、天井に上る。線の切り端とか塵芥とかを、周囲に散布のまま立去る。隣家は明日引移り来る由。入浴に出掛ける際、玄関傍にて秀夫に会す。澄子痔痛み苦し、相共に湯に行く。秀夫に家賃の前払ひ17円50銭、其の他に、借用金20円返戻す。余より出金す。澄子に質せば、着物を求めたる為、お金に不足を来たせる趣。十一時寢床。

昭和12年4月10日（土）

昨岩田デパートより、春日原桜見に九鉄無料電車券、及び果物其の他土産品券、連続五枚のを貰ひ、其の為、午後より久子連れ出発。此の日快晴、漸く気温上昇。余の電車料半額二十四銭、久子に立換え貰ふ。土産品は

蜜柑にバナナに、風船玉、小旗、博多半面、提灯一。池を廻りて渡る。舞踊舞台、活動写真、仕掛花火等の催しあり。其の時刻を待たず販宅。岩田屋にて十五銭、寿司三つを求め、皆を馳走す。中尾みわ氏より小包、橋本氏より送らる。横町氏より貯金通帳にて三千六百余円、及び記念写真等送付越さる。朝日神風機は昨日、無事倫敦（ろンドン）に到着。

昭和12年4月11日（日）

晴れ、風強し。澄子、痔病痛疼甚だしと見ゆ。朝も起き切らぬ有様にて、道子炊事を世話す。此朝門扉を開放せんに、新聞向かいの家に飛散し居る。之を拾ひ来る。福日本紙初頁は前の家の下に飛び居る。之を拾ひ来るべく、塀を乗越えざるべからず。少時して前の家より起き出て来たり、之を拾ふて其の儘返さず。当方も強いて要求もせず。澄子此日は終日起き上がらず、夜食を摂りたるのみ。澄子に入院手術を要望す。余にも勧告方注意し来る。何かと道子喰って懸かる。夜入浴に久子と出掛く。手紙を投函して入浴す。久子と一緒に販る。十時寢床。佐世保、久夫来る。

昭和12年4月12日（月）

朝暖かなり、四時三十五分起床。新聞を見て手紙を認む。午後、岡田染四郎氏来宅。恰度道子は高宮、山本先生（直方高女校長より女専校に移る）を訪ふて不在。澄子の痔疾は、飯塚の行徳病院にて注射にて完全に治療すと云ふ。余も然らばそこに行くことを同意す。澄子容易に承諾せず。夕食を済まして、岡田は娘の看護婦試験に臨むべく出福せしを、送りて来れるもの。此夜、息子の電機

学校に入学し居る者と一緒に落合ふて、団欒したき旨にて販りたり。此夜、隣家に引越し来たりし日立製作所九州営業所、楨直幸氏挨拶に来る。久子を連れ入浴行。

昭和12年4月13日（火）

朝来風強し。岡田来たり目隠しを造ると云ふ。金貳円を与ふ、板を数枚求め来たり。物干しをも造り呉る。午前中、那須巖君、四歳になる坊ちゃん連れにて遊びに至る。おこしを子供にも与ふ。正午まで居り販らんとす。午餐にうどんを取り皆に振舞ふ。大分良い機嫌になり新聞を見て居る間に居眠りす。湯札を遣りて風呂に行かしめ、後刻澄子久子と共に風呂に行く。髯剃りす。販れば既に岡田は眠りて居る。十時過ぎ寢床。岡田に不要の襯衣（はだぎ）類数枚、余の冬帽を与ふ。書き漏らしたるが、佐世保の久夫は友達と自転車にて拾貳時間を要して、当地に来たり。安宿に兩人一緒に泊まり、十二日午前五時四十分唐津経由にて、午後四時三十分無事帰佐せし由。十一日に来たりし時、久子と西公園まで行き、昼食を久子に馳走せし由。土産を託して遣る。

昭和12年4月14日（水）

夜来風強し、十時頃より雨となる。壁土の砂塵を散乱せしめ、掃除する後から落下す。岡田、朝墓詣りに行くと称し、六時出掛け八時過ぎ帰宅。娘の九大仏教青年会館に於ける試験場まで行けるらし。余は彼を待たずに朝餉を済ます。今朝小屋の扉に開閉鍵を造り居る。澄子便所へ、其の儘寝込む。行徳医院行き不可能となる。岡田は十時頃販る。昨午後四時より、新柳町に封筒を求めに行き、市場一巡。電車通りに面して和洋紙類を販売す

る店舗あり。四十銭にて一箱求め、新柳町局にて一銭切手十枚求め、販れば恰度一時間を費やせり。手紙数通認め、入浴に行く岡田に投函を委託す。此日も猶到着の順に、丹治、北村両氏に書く。大体以上にて一通り認め終わりぬ。雨は歇まず、風漸く衰ふ。時に三時。夜に至るに及び雨も歇みたり。

福日夕刊に左記の通り局長の異動発表あり。

鹿児島、西邇次郎（佐世保）。佐世保、本間忠治（八幡）。八幡、磯松普輔。福岡電話、大野藤一郎（富山）。門司、古川敬次（下関）。

秀夫夜来たり。青砥良一氏の唐津、橋口久美氏の博多局長を告ぐ。

昭和12年4月15日（木）

昨夜の秀夫の口添えに依り、痔瘻（じろう）なるかも知れぬと脅かされ、愈々此日飯塚行きを決意し、十一時頃タクシーにて出発せんとす。澄子其の必要なしとてバスに変更。乃ち呉服町までバス及び電車にて、零時45分発にて1, 60一時間二十分費やし、弐時到着。稲荷町、行徳病院を訪ふ。勝守公園桜見に化粧団体多数出勤、賑やかなり。病院は此日休診の掛札あり。一旦宿屋に引揚げんとしたるも、一応事情を通告し、医師在宅ならば治療を請わんとし、再び引返して家人に事情を話したるに、それなら診察せんとて、間もなく医師が診察室に顕われたるに、今度は澄子が誰も居らぬなら自分もやめると称して承知せず。漸く懇示して受診せしむ。医師の言に依れば、是れは心配する程でない。此の位のは普通婦人には有り勝ちだ、痔瘻になるのは質が違ふ、注射の要もない。痔の根本が裂傷を有する為、疼痛を感じるも

のなれば、此の薬で治療するとても簡単に謂わる。依って其の儘、澄子は販途に就かしめ、余は序でに中津に行くこととし、三時半頃澄子を送りて後藤寺行きのに乗る。四時三十分頃着。伊田より行橋行きに乗換え、六時近く行橋着。飯塚より80銭、更に五時四十五分行橋発50銭、中津行きにて七時中津着。巖も居りたり。夕食を済まして泊まる。風呂も沸かし呉る。色々咄し十時を過ぐ。和博三才と云ふが、家にばかり居り戸外に出ること少なし。悦子も大きくなり半歳、既に笑ふ。是れは頗る温和にて、始末し易し。巖、悦子を風呂に入れ、愛子和博を入れる。晴天。

昭和12年4月16日（金）

曇り、時に晴れ間もあり。水浴。朝食後、和博を連れ巖と散歩三十分間計り。グリコ30、カルケット20求めて土産とす。和博喜び一散に家に販る。無闇に人に与ひ、忽ち一筈を平らぐ。巖は九時過ぎ出発。余は少時愛子と咄し、準急十時四十五分発にて出発せんとし、十時二十分出発。1, 76。小倉に正午着く。宝町、梶沼好氏宅を訪ふ。リンゴ1, 20銭分持参す。東伏見宮殿下行啓に、婦人会連中盛装して出迎えたるらしく、其の姿の儘にて数名居るらし。主人は上京不在なりと云ふ。多忙らしきを察し其の儘販る。午後一時九分発に時間あり。金物商にて出刃庖刀及び錐カンナ等を求む（カンナ80、錐14、先細刀35、庖刀40）。バナナ50銭にて求め販宅。廁に行き水浴。秀夫来る。道子等入浴に行く。間もなく販り茶など出す。青砥氏及び電話局長小崎氏の送別会を、商議地下室みかど食堂にて洋食にて開催。初めての連中多く、種々失敗のこと不慚しを咄し抱腹せり。二郎より安着



の葉書ありしと云ふも、余の許には未だし。兎に角、無事に遣って行けるなら別に心配することなし。十時過ぎ寢床。

昭和12年4月17日（土）

快晴。久子岩田屋行きを薦めて止まず。十時半行く。新柳町まで徒歩、それより電車。岩田屋に至り六階に至れば、頗る混雑。廉売（れんばい）と云ふに集まり居る。封筒百枚20、便箋10は安し。乃ち封筒百枚、便箋二冊を求め松屋に至る。爰（ここ）は人の居ること尠し。電燈セット55銭にて求め、公認市場にては鰯10銭、柳町市場にては海苔巻き9銭参本、及びニラ10銭にて、一時過ぎ販宅す。椅子の脚部の破損を直す。釘抜きの代わりに金槌を、10銭にて古道具屋より求め来る。便所及び廊下の扉の取手を直す。便所の手拭掛けをも作る。風呂休み水浴す。身体冷え、朝方便所に起きたり。此日手紙、田中嘉三次氏より寄せらる。岡田光邦より礼状到着。

昭和12年4月18日（日）

曇天。午前中新聞を見、午後より本筥の抽出を直し、郵便受函を作る。途中林直一氏来宅。三十分程色々話す。山村氏の問題をも出ず。同氏販り夕餉を済まし、再び取掛かりしも夕方になり止む。七時半入浴に、それより道子等行く。天気次第に悪くなる。通信文庫より加除訂正書来る、之を返却す。逓信協会より四拾五円送り来る。受領証を唐津局に発送す。夜冷ゆ。

昭和12年4月19日（月）

曇り、時に陽光を仰ぐ。午後四時頃より漸く晴れ。新聞

によれば幸袋長、伊藤徳太郎親子共、大臣表彰に与（あずか）ることとなり、定雄氏通信手代表として上京せし由に付き、祝詞を徳太郎氏に送る。其の他表彰者多数あり。静江氏より情報あり。此日は手紙の返事に没頭し、何処へも行かず。風呂にも行かず。十一時まで費やし、珍しく遅く寝る。

昭和12年4月20日（火）

曇り。昨ヘレン・ケラー女史大阪に行き、天香師出迎はる。午前中道子等、握り飯持参、西公園に行き、余留守居。午後、郵便受函作成。本日通信記念日。岩田屋百貨店にては通信博覧館開設。静江氏より書面、女中との交渉に関する件なり。返事やる。

昭和12年4月21日（水）

曇り、時々陽が差す。午前中竹下附近まで行く。二階より見て正面に大煙突あり。松房博多織工場なりし。唐津線踏切を越えて、間もなく南小路郵便局のあるのも知る。瀟洒なる洋館建て、局員二名居る。旭ビールの赤煉瓦の建物を臨み引返す。先ず高き煙突の正体を究めて嬉し。次いで午後より、足に任せて探勝の気持にて出掛けしも、岩田屋丈にて小ビスケ一升20、味噌煎17、ピーナツ百匁25を求め、柳町市場にて岩田屋と同じ小麦麺二把17（岩田屋20）にて求め帰宅。電車一区乗りたるのみ。此日高温度二十七度以上に昇り、頗る疲労し睡魔襲う。水浴。夕食後ラジオを聴き九時半寢床。須藤氏より日鉄二瀬時報送付あり。余を引合いに出せる記事あり。水浴を継続したるを余の忠告に基づくとなせし処、己を誇らざる謙虚の気持を味わえ得て床し。

昭和12年4月22日（木）

夜半より降雨、温度降下。正午を過ぐるも歇まず。橋本昇君より書留にて、十七銀行小切手百五円送付越せり。朝日機神風號、飯沼塚越両氏に対し、勲六等旭日章、下賜（かし）の恩命昨日発表あり。直方吉武美子（よしこ）さん来る。久子駅まで迎えに行ける由。突然二階に来たり挨拶す。童女の話に、二郎の女中も近所に付添い看護婦し、母子一緒に居る由。間もなく春吉の親戚に行き夕飯を済まし、先方の娘と来邸。此の夜は泊まる。松原常雄氏より先般の会計決算承知あり。計156, 58銭、大原氏57, 46銭となる。依って六円五十八銭、本日振替にて送付す。雨は四時頃歇む。久子、美子氏と活動に行き、十時過ぎ販る。

昭和12年4月23日（金）

曇り。朝久子、美子氏共に六時過ぎ起床。余の行事を終わらし頃と覚ゆ。午前九時半頃販途に就く。久子駅まで送る。十時過ぎ準急にて出発。余は午後一時過ぎ、橋本君より送付越しの小切手百五円余、十七銀天新町支店より受取り、同時に預金とす。銀行の捜査に頗る苦しみ赤坂門まで行く。然るに赤坂門に以前ありたる支店は、天神町に移転せしものの由にて、爰（ここ）にて漸く所在を確かめ再び引返し、一二回尋ねて判明せり。一カ年据置預金とせり。春吉下寺町、石橋時計店に大内田氏を訪ふ。爰も多少間誤付く。同氏在宅、慰謝して復た尋ねることを約して販る。松屋に行きたるも何も求むべきものなし。其の儘帰宅。剃刀磨き、風呂に入り、顔剃りす。三時頃霽れる。

昭和12年4月24日（土）

朝の間晴れ、次第に曇り。午後道子久子、新柳町市場に買物に行く。余は橋詰歯科医を訪ぬ。路を間違ふて住吉橋を渡り、西中洲に至る。川端を経て冷泉小学校側より奥堂に至る。橋詰氏猶、矍鑠（かくしゃく）たり。余の姿を見て既に之を認知す。一面識もなき者なれば何かと都合が悪かりしも、旧知の間柄とて具合良かりし。二十七日に来たれとのことに付き販る。大分遠廻りして一時間を要せり。往くさ写真を撮影して即席現象するさまを見、二三十分間を費やせり。三四十円の代物なり。四時四十分帰宅。夕飯を済ます。気温稍（やや）上昇せり。村田氏より手紙あり。選挙後伺ふとあり。岡藤氏に葉書にて、村田氏の来宅の際、来福を請う旨通知せり。道子残り、久子澄子入浴。

昭和12年4月25日（日）

夜半より降雨。時々歇みたるも、降り続きたるに近し。久子松屋に行きたり。夜秀夫に貯金払戻し、100円。久子に通帳を持たせ、電車二区分遣わし依頼す。糊作りて貰ひ貼付（切抜き）す。永添氏の事、林三郎氏より書面あり。返信発送せり。冷氣可なり強く、綿入れを纏う。此日午後七時三十分、冀東（きとう）政府長官、殷如耕氏の汎名古屋博覧会を祝すと題し、日本語にて放送あり。今日より靖国神社大祭八時より実況。招魂祭臨時大会放送。今回の合祀者1148柱。全国に渉り朝鮮満州に及ぶと云ふ。九時五十分寢床。冷氣強し。

昭和12年4月26日（月）

曇天、風強く冷氣。午前切抜き貼付。午後二時半練堀町、福岡一燈園に行く。南薬院に下車、古小島にて下車すればよかりしを、知らぬこととて多く歩みたり。練堀町より西に行けば可なるを、東に行き尋ぬるも不明。生長の家あり。郵便配達に尋ね、反対通りを知り、漸く発見す。突当たりの家の女中らしきが丁寧に教え呉る、一寸分からぬ家なり。音なふも誰も居らぬと見え応答なし。門口に帳簿に鉛筆あり。用事は之に記入することになり居る。試みに之を繰り上げれば、昨日午後二時三十分、松井甚市郎氏見え、不在中座敷に上がり、両夫妻の神霊に額附けたるに、雨萬々として両氏の在りし面影を偲ぶに適當せりと云ふ意味が書かれてあり。余も行事を営み販る旨記載し、十五分間程居りて販る。五時夕飯。中津駅前中江改久死去の報あり。二十三日午前九時とあり。唐津より回送越せり。其の息、一孝氏より通知のものなり。病氣とも知らざりし。中尾氏より手紙あり。

昭和12年4月27日（火）

晴れなるも、風強く砂塵を揚ぐ。午後より久子連れ、橋詰歯科医かかり行く。一区バスに乗り、後は徒歩。足駄は幾足も並びあるも患者の姿は見えぬ。吾等の後より子供が一人来たりし。初め久子診療、次いで其子供を、余は最後に廻して貰ふ。金冠を取外す事故、かなり無理が伴ふ。奥歯は金代用らしと云ふ。明後日来にて、此日は販る。天神町公設市場より日用品を求め、一区電車を利用。新柳町市場より再び買物して、バスにて販る。妙子の妹澄子さん来たり居る。百円払戻金持来せしもの。夕飯前去る。此日冷氣、衣を重ね猶寒し。昌江に手紙書

く。二郎結婚出費多額に就いて、及び道子の問題に及ぶ。八十円澄子に交付す。夜九時半寢床。誰も風呂に行かず。靖国神社臨時大祭二日目。至尊行幸啓、各戸国旗掲揚。公官衛会社、銀行休暇。

昭和12年4月28日（水）

曇り、依然冷氣。久子午前中松屋に行く。直方の良子さんより手紙。女中の末野は四五日前急に暇を取り、娘は戸畑に居る、上穂波にも居らぬらしとあり。此の午後二時過ぎ、去る四日二郎結婚式の際撮影の写真、頻りに見たしと澄子強請す。大原に送れと云ふは易けれど、恩に着せらるるも片腹痛しと思ひて、製作せし所さえ分かればこちらから注文するを可とし、荒戸町の上杉料理店に行く。城南線二区を乗り、高等学校前にて下車。道を水上公園に採り中通りを行く。魚釣人多し。其の釣り方の異様なる。粘土を丸めて針を付け、拾数間の先に投げ、線をたぐりつつ引く。一日三十銭の料金とあり。元居住の二番町を通り、大分変わった姿を見て懐古し、料理屋上杉に行き当時の写真師を尋ぬ。阿部写真館と云ふ。電車通りの同館に至り焼増しを注文す、四十銭なりと。乃ち代償を払ふて、届け先を保険局郵便窓口、為替係武藤に渡すよう頼み、猶念の為、保険局内郵便局に、武藤に逢ふて其の事を話して販る。三区乗る。冷氣なるも、歩けば割合寒からず。此留守に徳重君訪ねて来たりし由。

昭和12年4月29日（木）

天長節。午前中快晴。観兵式の実況放送を聴く。午後二時、歯科医に久子と一緒にいく。福岡製果の着物着たる労働者風の男居れり。市営問題に付き話す。今日は医

師により磨りへらさる心地快からず、其の儘販る。夜は秀夫来る。天気漸く落日となる、十時寢床。

昭和12年4月30日（金）

衆議院代議士候補者選挙。朝より次第に降雨。午後小雨を冒して、久子と医者かかり行く。三十円を要すと云ふ。今更辞するわけにも行かず応諾す。薬をつけた切り販る。今日は行く程の用はなかりし如し。道路泥濘、下駄にては難儀なり。足駄所在不明と云ふ。巖の保険料支払期、逼る。巖に交付すべく手紙書く。今日冷氣、雨終日歇まず。ピーナツ20銭にて久子に求めさす。子供風呂行き、九時寢床。